

埋文やまがた



1998年8月31日
第11号



山形市オサヤズ窯跡 SQ1 窯跡

瓦の出土状況

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURE ARCHAEOLOGY CENTER

〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301(代) FAX 023-672-5586



SQ1 窯跡

瓦を焼いた窯跡

瓦を焼いた窯がオサヤズ窯跡の発掘調査で見つかりました。調査は平成10年度の東北中央道相馬尾花沢線建設に伴うものです。約1200年前の奈良・平安時代の瓦を焼いた窯跡と考えられます。瓦の窯としては県内では平野山窯跡群に次いで二例目の調査という貴重なものです。

場所は山形市松原の南西部に位置します。窯跡は山形盆地から小松原丘陵へと傾斜が変わる辺りの斜面にあります。今のところ上山西部へ続く丘陵地では同時期頃と考えられる窯跡が8地点で確認されていますが、瓦だけを生産したのは本遺跡だけです。

窯跡は2基見つかりました。山の斜面を利用した半地下式の登窯です。出土した瓦は男瓦と女瓦と呼ばれるもので、指紋や指の跡がついてしまったものなどもあります。

また、近くから大きな掘立柱建物跡も確認されました。当時、これらの窯は役所によって運営されていたことを考え合わせれば、どのような役割の建物であったかは、瓦の供給先とともに大変興味深いところです。

(鈴木 徹)

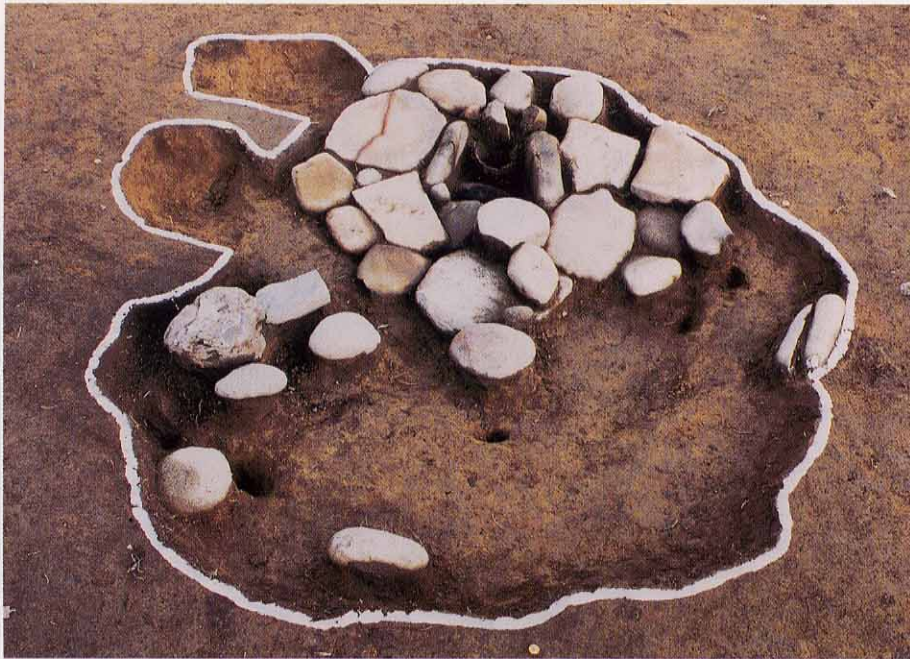


SQ1, SQ2 窯跡 東から



女瓦 表面

敷石住居跡



敷石住居

上方に土器を据えた石囲い炉がある。炉周辺の石は赤く焼けている。



千野遺跡遠景



調査区完掘状況

平成9年度の調査で小国町^{せんの}千野遺跡から「敷石住居跡」と考えられる石組み遺構が確認されました。場所はJR小国駅から東へ約7キロ、綱木箱ノ口の横川左岸に面した段丘上^{いいでさん}です。飯豊山に源を発した横川はやがて荒川と合流し、新潟県を貫いて日本海へ至ります。本遺跡では、縄紋時代後期を主とした遺構や遺物が多数確認されています。

敷石住居とは、住居の床として全部または一部に平らな川原石を敷き並べた住居のことをいいます。使われた時代は今から約4,000年前から3,500年前、縄紋時代中期末から後期前半に限られています。

石で囲んだ炉を中心にして、円形状に河原石を敷いたものが多いのですが、柄鏡^{えかがみ}のように張り出した部分があるものや、方形に近いものもあります。規模は直

径約4メートル前後が普通ですが、大きいものでは径8メートルを超える例も報告されています。

本遺跡で発見された石組み遺構は、石囲い炉の周辺で円形状の敷石が確認され、住居跡と考えられるもので、全体の大きさも径2メートルと小規模なものです。石囲い炉の中には鉢形の土器が埋められました。さらに敷石の中には赤く焼けた石も数多く含まれています。時期は後期前葉と考えられます。

敷石住居はこれまでに、関東地方や中部地方東部、それに新潟県などで多く検出されています。荒川水系に属し、新潟県と地理的な関係が強い小国町で見つかったことから、本遺跡の石組み遺構は敷石住居の一部として使われた可能性が考えられます。

(須賀井新人)

小田島城跡

東根市の小田島城跡は「東根城跡」とも呼ばれています。現在ある周辺の道路や水路は、江戸時代はじめの絵図とほとんど形が変わっていません。近世初頭の城下町の姿をよく残した例といえます。

ここに都市計画街路長瀬・神町線が計画されたため、平成9年度から発掘調査をおこなってきました。

城の防御施設である土塁や堀、^{ぼうぎよ}堅穴^{どるい}建物跡などが見つかりました。この家の跡からは金箔を貼ったかわらけが出土しました。

興味深いことに、土塁の下からは城が築かれる以前の遺構などが見つかっています。

なかでも平安時代の製鉄遺構は高温により溶けた壁や床の部分がよく残っています。県内でも貴重な検出例と成りました。

そのさらに下の層からは約5000年前の縄紋時代中期の土器や石器が出土しています。

(高桑 登)



南区第1面調査状況

左奥の小学校が本丸にあたります。調査区の土塁左側が二の丸、右側が三の丸にあたります。小学校のそばには国指定特別天然記念物の大ケヤキが見えます。



製鉄遺構（上段）同土層段面（下段）

平安時代の炉跡が3基重なって見つかりました。土層段面では土が赤く焼けただれている様子が分かります。



金箔付かわらけ



堅穴建物跡

金箔付きかわらけが出土した中世の家の跡です。深さが1メートルもあり、壁に沿って7本の柱の跡が見つかりました。写真の上方には入口らしい階段が見られます。



① 人骨の出土状況、腰の部分が残っていない。



④ 全体を紙で覆い終わった様子。



② もろい部分を樹脂で補強する。



⑤ 緩衝材を流し込むため段ボールで囲う。
発砲ウレタン（緩衝材）を周りから流し込む。



③ 周りを掘り下げ、取り上げ用の棒を設置する。
骨に緩衝材が着かないように濡らした紙で覆う。



⑥ 緩衝材で全体を覆ったら、土台の棒を持ち上げ取り上げる。

ぜいじゃく い ぶつ と あ 脆弱遺物の取り上げ

北側の土塁の下から、室町時代ころの墓穴が見つかりました。楕円形に掘り込まれて、中からは頭部を北にして東側を向いた人骨が出てきました。足を折り曲げ膝を抱えるような姿勢をして埋葬されたようです。頭部には鎌、足下には貨幣が一枚入った鉄椀が副葬されています。

骨は非常に脆い状態でした。そこで東北芸術工科大学の保存科学研究室に取り上げ協力をお願いしました。上記写真の手順に従い、骨を土ごと取り上げることに成功しました。これから土を取り除き性別、年齢、死因などを詳しく分析していく予定です。

平成10年度の事業概要

1. 埋蔵文化財の発掘調査事業

発掘調査は日本道路公団・山形県から委託を受け、高速道路・一般道・施設などの建設と整備に先だって実施します。今年度は21遺跡の本調査のほかに、17遺跡の予備調査が予定されています。面積にして164,990平方メートルになります。

No.	市町村	遺跡名	時代区分	種 別	調査面積 ：平方m	開始 終了	事業名 地区名
1	川西町	太夫小屋1遺跡	平安時代	集 落 跡	8,700	7/6～10/22	県営ほ場整備事業
2	米沢市	大樽遺跡	縄紋～中世	集落跡・城館跡	1,500	9/7～11/6	一般県道綱木米沢停車場線
3	寒河江市	高瀬山遺跡 (ハイエーオアシ)	縄紋～平安時代	集 落 跡	44,100	4/8～12/3	最上川ふるさと総合公園整備
4	東根市	小田島城跡	縄紋～中世	集落跡・城館跡	1,500	4/20～7/10	都市計画街路(長瀬・神町線)
5	藤島町	藤島D遺跡	中 世	城 館 跡	1,500	8/17～9/22	都市計画街路(藤島・笹島線)
6	山形市	城南一丁目遺跡	縄紋～近世	集落跡・城館跡	8,890	4/8～8/12	山形駅西口都心ビル建設
7	米沢市	米沢城跡	中世～近世	城 館 跡	4,000	7/21～11/27	置賜広域文化施設建設
8	河北町	四ッ塚遺跡	平安・中世	集 落 跡	3,900	5/11～6/26	救護施設改築整備事業
9	山形市	オサヤズ窯跡	平安時代	窯 跡	4,400	5/11～7/10	東北中央自動車道相馬・尾花沢線
10	山形市	谷柏J遺跡	平安時代	集 落 跡	1,200	7/13～8/7	"
11	山形市	萩原遺跡	縄紋・平安	集 落 跡	4,900	8/24～10/16	"
12	山形市	百目鬼遺跡	平安時代	集 落 跡	5,900	8/24～10/23	"
13	山形市	樋渡遺跡	縄紋・平安	集 落 跡	1,000	6/29～7/10	"
14	山形市	塚田遺跡	弥生・古墳	集 落 跡	2,000	11/2～11/27	"
15	天童市	影沢北遺跡	平安時代	散 布 地	5,500	10/1～11/20	"
16	天童市	砂子田遺跡	縄紋・古墳・平安	集 落 跡	3,900	7/6～8/28	"
17	天童市	中袋遺跡	奈良・平安	集 落 跡	8,100	9/7～11/27	"
18	天童市	蔵増押切遺跡	古墳～中世	集落跡・水田跡	13,200	4/14～11/27	"
19	天童市	板橋1遺跡	縄紋・古墳・平安	集 落 跡	12,300	4/14～9/25	"
20	天童市	板橋2遺跡	古墳～中世	集 落 跡	7,000	4/13～6/12	"
21	天童市	的場遺跡	古墳～中世	集 落 跡	9,500	4/13～6/26	"
22	山形市 天童市	予 備 調 査 (17遺跡)	縄紋～近世	包 蔵 地	12,000	4/9～11/27	"



オサヤズ窯跡調査風景



遺物洗浄作業風景

2. 整理・報告書作成作業

発掘調査の成果を報告書にまとめ、保存と活用及び保護思想の普及に役立てます。

整理・報告書作成作業は4月から来年3月までかけておこなわれます。

No.	市町村	遺跡名	時代区分	種別	事業内容	報告書刊行年度
1	村山市	宮の前遺跡	縄紋時代(晩期)	集落跡	報告書作成・印刷	10年度
2	朝日町	八ツ目久保遺跡	縄紋時代(中期)	集落跡	報告書作成・印刷	10年度
3	小国町	野向遺跡	縄紋時代(前期・中期)	集落跡	報告書作成	11年度
4	〃	市野々向原遺跡	縄紋時代(早期・前期・晩期)	集落跡	報告書作成	11年度
5	〃	千野遺跡	縄紋時代(後期)	集落跡	報告書作成	11年度
6	寒河江市	三条遺跡	縄紋～近世	集落跡	報告書作成	11年度
7	〃	高瀬山遺跡(1期)	旧石器～平安時代	集落跡	整理作業	12年度
8	〃	高瀬山遺跡(2期)	縄紋～中世	集落跡	報告書作成	11年度
9	〃	高瀬山遺跡(サビノアヲ)	縄紋～中世	集落跡	報告書作成	11年度
10	〃	落衣長者屋敷遺跡	縄紋・平安・中世	狩猟場・集落跡	報告書印刷	10年度
11	〃	高松Ⅱ遺跡	奈良・平安・中世	集落跡	報告書印刷	10年度
12	〃	高松Ⅲ遺跡	奈良・平安時代	集落跡	報告書印刷	10年度
13	〃	木ノ沢楯跡	平安・中世	集落跡・城館跡	報告書印刷	10年度
14	西川町	睦合館跡	中世	城館跡	報告書作成・印刷	10年度

3. 研究・普及事業

埋蔵文化財保護に関する研究と、保護思想の普及を目的とした活動をおこなっています。

■調査説明会

発掘調査している遺跡で説明会を開催します。調査説明資料を刊行し配布します。

■出土文化財の保管と活用

出土文化財及び調査記録写真の展示会等への貸出をおこなっています。

■広報誌・年報の発行

埋蔵文化財に関する情報、調査研究の成果を紹介しています。



上山市立南小学校6学年施設見学



新任職員現地研修

国指定重要文化財

平成10年6月30日付文部省告示第112号により、西ノ前遺跡出土の土偶48点が国の重要文化財に指定されました。

西ノ前遺跡は舟形町の小国川左岸の河岸段丘上にある、縄紋時代中期（約4,700年前）の集落跡です。土偶は平成4年におこなわれた、国道13号尾花沢新庄道路改築工事に伴う発掘調査の際に見つかりました。

特に日本最大の土偶は、半径約3メートルの範囲内から五つの破片が出土して、すべて接合され復元できたものです。高さ45センチメートル、最大幅17センチメートル、重さ2.8キログラム、現存する縄紋土偶の中では最大のものとなっています。姿形は直線や円弧をモチーフとして極端なまでに抽象化されており、顔表現の省略、長くしっかりとした脚、くの字に張り出す頸部、W字形の乳房などの表現に特徴がみられます。



発掘された日本列島'98

新発見考古速報展 開催される！

毎年全国で12,000件以上の発掘調査が実施されています。発掘された遺跡や出土品は、私たちの祖先が大昔からすばらしい文化を築いてきたことを教えてくれます。

今回は、旧石器人の食生活がわかる道具や縄紋時代の山菜から卑弥呼の鏡ともいわれる「青龍三年」銘鏡、江戸時代の小判や明治のワインボトルまで、注目を集めた最新の発掘成果を速報します。

いま、日本の歴史が刻々と書きかえられています。

巡回展の日程

栃木県立博物館 1998年8月23日～9月13日

TEL.028-634-1311

福井県立博物館 1998年9月20日～10月11日

TEL.0776-22-4675

倉吉博物館 1998年10月22日～11月15日

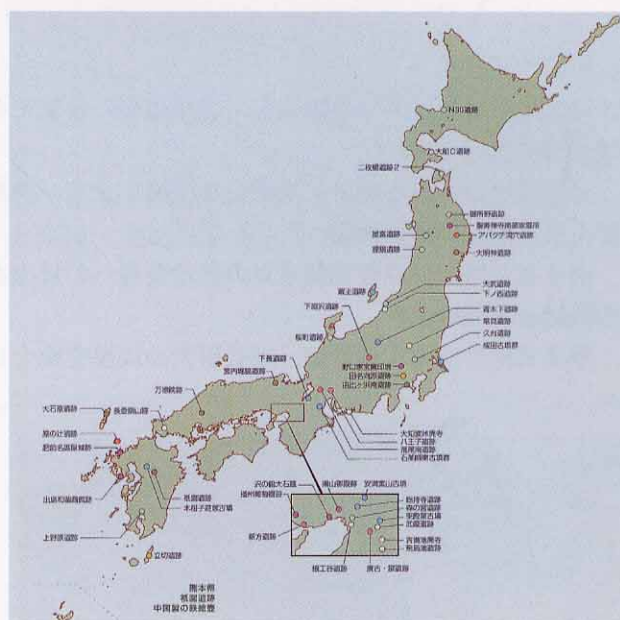
TEL.0858-22-4409

大阪市立博物館 1998年11月22日～12月20日

TEL.06-941-7177

長崎県立博物館 1999年1月9日～1月31日

TEL.0958-21-6700



編集後記

● 航空写真から復元する遺跡の地形測量や、保存科学的に遺物の取り上げ、土器の胎土分析による産地の同定、放射線を使った年代測定など、今日多くの諸科学により遺跡の発掘調査は支えられています。今後とも諸科学と上手く融合しながら、人類の歴史が発掘調査で明らかにされていくことを望みます。(郷)